

ISO9000,ISO14001

マネジメントシステム構築入門

第1章 ISOとは

西村経営支援事務所

<http://www.nsweb.biz/>

1

ISO9001やISO14001の認証取得は、既に新聞や雑誌などで取り上げられ、会社案内などに掲げられているケースも、よくあります。

ISO9001品質マネジメントシステム、ISO14001環境マネジメントシステムとも、マネジメントの対象は異なりますが、マネジメントの方法は同じです。

ここでは、ISO9001やISO104001のように単独で認証取得をするのではなく、一つのマネジメントシステムとして構築し、認証は同時取得することを想定し、第1章～第5章までを通して、基本用語の解説、規格の根底に流れる考え方、システム構築の概略手順を説明します。

まず、第一章では、ISOとはどんなことから説明します。

第1章 ISOとは

「国際標準化機構」の略称

語源はギリシャ語の“ ISOS ” = 相等しい
英語：International Organization
for Standardization

設立 1947年（本部はスイスのジュネーブ）
・1952年 日本が加入
・世界で135ヶ国が加盟（2000/1現在）

世界で共通の取り決め事（国際規格）の調整・制定を実施。

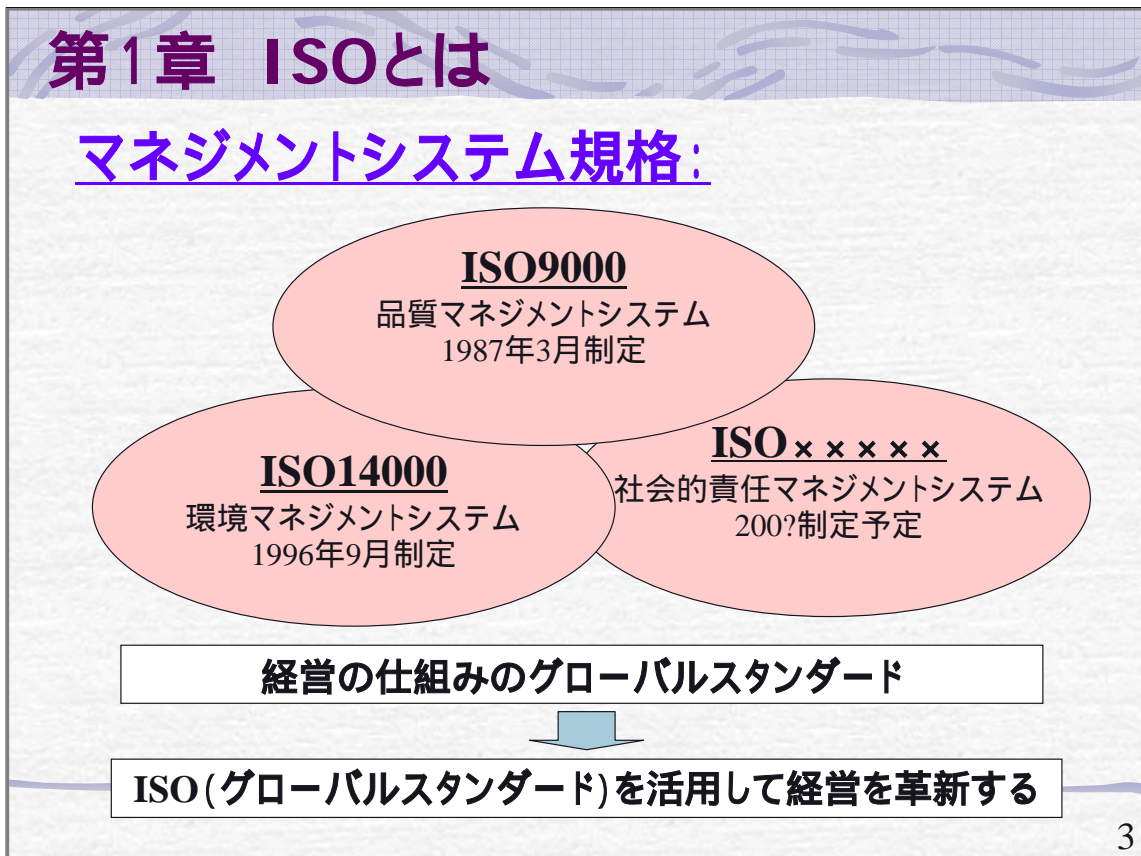
2

さて、ISOでは、世界共通の取り決め事である国際規格の調整や制定を行っています。例えば、皆さんが今見ているパソコンがアメリカ製品だったとして、故障した場合、修理用の部品が必要となってきます。しかし、アメリカ規格の物であるため、日本では部品を入手することはできず、取り寄せることとなり、時間がかかります。

たとえば、国際規格の製品であれば、世界各国、どこでも直ぐに部品を入手することができます。

人、物、金が交錯している世界で、国際規格は必要なのです。

ISOは世界135ヶ国が加盟する、このような国際的な規格を作る機構です。



ここで、国際標準化機構によって、調整・制定された国際規格にはあらゆるものがあります。

なじみが深いものに、カメラのフィルムがあります。

その他、コンピュータ言語としてISO2110、6373...など、いろんなものがありますが、その中に、仕事のしくみの規格もあります。

ISO9000は品質マネジメントシステムの規格、ISO14001は環境マネジメントシステムの規格です。また、現在制定作業中のものとして、社会的責任マネジメントシステムの規格があります。これら3種類のマネジメントシステム規格は、世界の中で、うまく経営が行われている組織のしくみを参考に定められたもので、経営のしくみのグローバルスタンダードともいうことができます。

ISOの認証を取得する目的の一つは、これらのグローバルスタンダードを活用して自社の経営を革新するということにあります。

第1章 ISOとは

ISO9000の生い立ち

- 1947年 : ISO(国際標準化機構)設立
- 1970年代初頭: 軍規格
- 1979年 : BS5750制定
サッチャー政権が“産業の自由化”の政策を
とり統一規格として急速に浸透
- 1987年 : BS5750からISO9000が発展
- 1994年 : 規格の改訂
- 2000年 : 規格の改訂**
これまで、「品質保証の国際規格」だったものが
「品質マネジメントシステムの国際規格」となった。

4

これから、皆さんは、ISO9000について取り組まれるわけですが、その生い立ちについて説明してみましょう。

1970年初頭では、イギリス軍の軍用規格として用いられていましたが、イギリスでサッチャー政権が誕生し商業が盛んとなった1979年代に、イギリス規格BS5750として制定され、急速に発展しました。

その後、1987年に、イギリス独自の規格から国際規格ISO9000として発展し、1990年に、国際規格ISO9000シリーズとして、正式に制定されました。

そして、2000年に、改訂版が発行され、今日に至ります。

ISO9000が、2000年版に改訂されて、どのようになったかは、3章にて説明します。

第1章 ISOとは

ISO14001の生い立ち

- 1987年 : ISO9000品質マネジメントシステム
- 1992年 : BS7750環境マネジメントシステム
- 1992年 : リオ,地球サミット 産業界への要望
- 1996年 : ISO14001制定**
「環境マネジメントシステム」
- 2004年 : 規格定期見直し(小変更予定)

5

一方のISO14001の経緯について説明します。

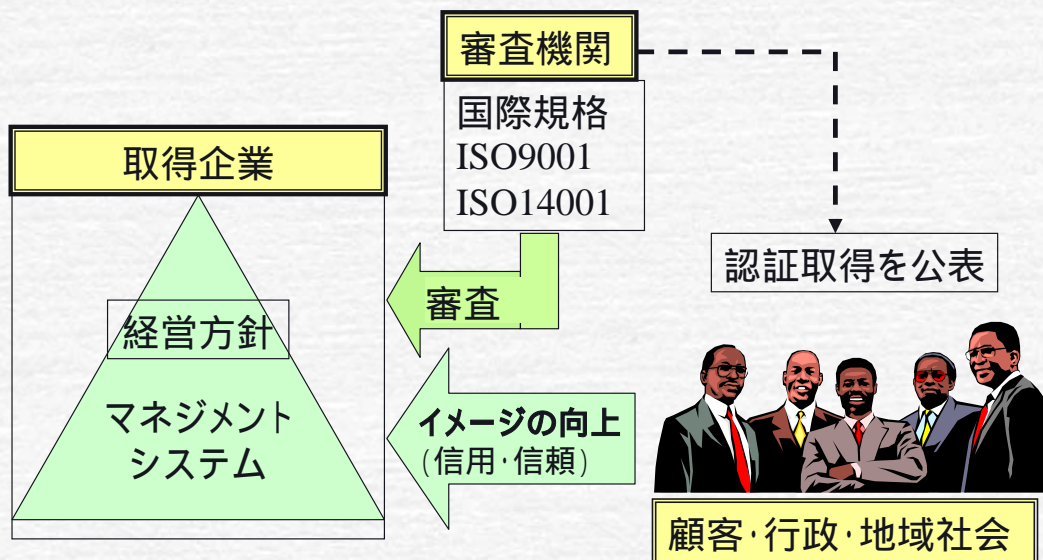
1992年にブラジルのリオデジャネイロにおいて、第1回の地球サミットが開催されました。そこでは、深刻化が予想される地球環境問題についての話し合いと今後の活動指針“アジェンダ21”が採択されました。

この地球サミットと前後して、企業活動の中で環境を考慮した経営を進めていくために、ISO9000と同じような仕組みを取り入れることが提案され、ISOに制定が依頼されました。

ISOでは、既に制定済であった英国の環境マネジメントシステム規格BS7750を参考に、1996年にISO14001規格を制定しました。

第1章 ISOとは

ISO認証システムの意図



6

ISOの特徴として、認証ということが挙げられます。

企業は良い経営を目指してISO9001あるいはISO14001をガイドラインとしてマネジメントシステムを構築します。

そして、そのことを企業とは利害関係のない第三者である審査機関に審査してもらいます。

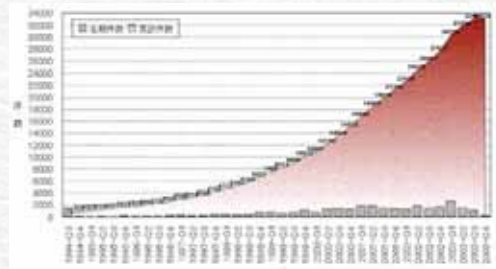
審査機関はISO規格に照らして審査し、合格している場合は認証という形で世間一般に公表します。

顧客・行政・地域社会はその情報を元に、対象企業が信頼の置けるところであるかどうかを判断する参考とします。

第1章 ISOとは

ISO9001、14001取得件数の動向(JABカウント分)

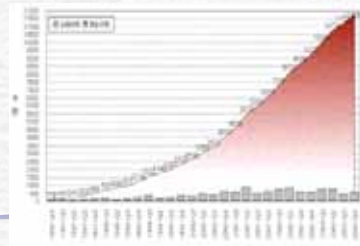
ISO
9001



2003年
12月現在

3.3万
事業所

ISO
14001



1.2万
事業所

7

これはJAB(日本適合性検定協会)の統計ですが、ISO規格が制定されて依頼、認証件数は急速に増えてきました。

ISO9001規格の認証は、2003年度に入ってやや鈍化傾向にあります。ISO14001規格の方は伸び続けています。

第1章 ISOとは

ISO認証が増加するもう一つの理由

ISO9001

入札条件として採用

- 国内—
 - ・防衛庁 98年3月より
 - ・国土交通省 2000年4月より
 - ・厚生労働省 導入進行中
 - ・民間 大手弱電
NTT
- 海外—
 - ・東南アジア
(香港、シンガポールなど)

ISO14001

地方自治体

33都道府県がISO14001を

取得、

グリーン購入法の制定

企業

独自の基準でグリーン購入を推進

電気:NTT, 松下、富士通、日立他

複写機:リコー、キャノン他

自動車:トヨタ

建機:コマツ

このように、ISOの認証が増加するもう一つの理由は、認証取得が取引条件の関わっていることによります。

例えばISO9001は、公募型工事の入札の際の経営審査の評価点の一部に採用されています。

ISO14001は、自治体のグリーン購入の条件に関係しています。また、大手メーカーでは、取引条件に織り込んでいるところもあります。

第1章 ISOとは

(例)

Mグループ購入先選定基準(2003年8月27日付け)

M電気グループは「地球環境との共存」の考えにたち、今後、環境保全活動に積極的な取り組みを実践している購入先様との取引を優先してまいります。

- Q, C, D等の指標による評価とは別にE(環境)指標を評価します。
- E(環境)についてはISO14001による運営管理を基本とします。

特例を除き、可能な限り早期にISO14001による環境保全の取り組みを必須とします。

9

これは、ある大手電気メーカーのM電気グループの購入先選定基準の一部ですが傘下の取引企業に対して、ISO14001を取得することを求めています。

第1章 ISOとは

わが社の導入目的は

- ❖ 顧客及び地域社会の要請に応えること。
- ❖ 業務の標準化を進め、均一な仕事・活動を進める体制を整えること。
- ❖ 環境に配慮した製品(グリーンプロダクト)の開発を促進すること。
- ❖ グローバルスタンダードの導入により、経営システムの見直しをはかること。

10

以上、一般的な状況を説明しましたが、実際のところその目的は組織ごとに違います。

これは、ある会社がキックオフに当たって、社長さんが説明された目的です。

- 顧客及び地域社会の要請に応えること。
- 業務の標準化を進め、均一な仕事・活動を進める体制を整えること。
- 環境に配慮した製品(グリーンプロダクト)の開発を促進すること。
- グローバルスタンダードの導入により、経営システムの見直しをはかること。

の4項目を挙げられています。